

# 利賀っ子だより



R 3 . 6 . 9

## ○ 相手の気持ちを考える

今年度の重点目標の一つ「相手の気持ちを考える」に関わって「利賀っ子委員会」の子供たちが企画したコーナーが設けられました。自分が相手の気持ちを考えて行動した時に大きなハートの中にどんなことをしたのか書いたカードを貼っていくというものです。

カードには、「水曜日（掃除なしの日）に掃除をした」「習字の後に新聞紙を片付けた」等、みんなのためを考えた行動が記されていました。ところが、高学年のカードが

1枚もありません。高学年の3人の行動を見ていると、下の学年に声をかけたり、順番を譲ったり、手伝ったり、相手の気持ちを考えての行動はたくさんあります。カードを書く時間がないのかなと思って聞いてみると「それは、上の学年だから当たり前のこと。」と口をそろえて答えました。

これまでの先輩方の姿から学んだことなのでしょう。全校で行動することが多い「利賀っ子」には、あらためて“相手の気持ちを考えて”と言わなくても当然のこととして身に付いていることが分かりました。それは、すばらしい力であることを3人に伝えたのは言うまでもありません。



.....

中学年が集合学習で行うゲームの係を決める話し合いをしていました。

必要な係とその人数を相談して決め、いよいよ誰が何の係をしたいのか決める段階になりました。希望を出し合うと、人数に偏りがありました。司会のHさんは、自分のしたい係を他の人に譲ってもよい人はいないか聞きました。2人挙手し、その2人が、人数の足りない係に入ると予定通りの分担になりそうでした。係を決めるときは、よく行われる方法です。

しかし、Aさんは、「譲ってくれた人に、(人数の)足りない係に行ってもらうのはかわいそう。2番目にどの係をしたかったのか聞いてみるとよい。」という内容の発言をしました。皆が賛成し、さらに話し合いが続きました。最終的には、やりたい係を譲った2人は、人数の足りない係を引き受けたいということで皆が納得のいく係になりました。

これまでの利賀小学校では、小さい頃から一緒に活動しているメンバーなので、特に相談しなくても互いの思いがよく分かり、なんとなくスムーズに進んで行くことも多かったように思います。山村留学生が転入し、新しい人間関係ができていく中で、互いの思いを尊重し、意見を出し合い、確認しながら進めていくということを学んでいると嬉しく思いながら話し合い活動の様子を見ていました。

(高田 公美)